第68回熊本県酪連通常総会開く

隈部　　洋 会長

熊本県酪農業協同組合連合会の第68回通常総会が６月28日（月）、本会会議室において開催されました。

総会は、隈部洋会長の挨拶に続き、ホワイト酪農業協同組合の池田洋組合長を議長に選任し、令和２年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、注記表、附属明細書および剰余金処分案承認の件、令和３年度事業計画承認の件など７議案が上程され、いずれも原案通り承認されました。尚、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来賓へのご案内を控えた開催となりました。

また、松島喜一副会長の退任に伴い、総会後に開催した理事会にて、新たに大村英治副会長（玉名酪農業協同組合）の就任が決定致しました。

【令和２年度事業概況】

令和２年度の我が国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大により内・外需ともに甚大な影響を受けました。政府は、２度に亘る緊急事態宣言の発出や、感染拡大防止策とともに、特別定額給付金の支給や経済対策キャンペーンなどの景気回復への対策を講じました。また、世界経済は戦後最大級の危機のなか、経済活動再開の足取りは鈍く回復には時間を要することが予測されています。

酪農界においては、生産基盤強化対策による大規模化や省力化、後継牛の着実な増頭もあって、生乳生産は前年を上回って推移しました。しかし北海道の増産基調が続くなか、都府県の減産を補うための道外移出乳への依存が高まりました。また、第15回全日本ホルスタイン共進会九州・沖縄ブロック大会をはじめ、多くの開催行事は中止を余儀なくされました。

乳業界においては、４月の緊急事態宣言によって、外食産業などでの需要不振や学校給食の休止により、脱脂粉乳や業務用バターが在庫過剰となる一方で、家庭内消費の急増により牛乳類が逼迫するなど、生乳需給に多大な影響が及びました。

このような状況のもと、生産本部においては、酪農経営の安定的な継続を図るため、家畜伝染病予防法改正に伴う新たな防疫対策や乳用種雌牛増産支援等に取り組むとともに、生産基盤の維持・強化に向けた各種対策事業の支援を継続し、生乳生産は前年を上回る実績となりました。

乳業本部においては、ＬＬ牛乳の主力販売先である外食・業務筋への売上が激減した反面、巣ごもり需要により量販・生協での売上が増加したほか、大手コーヒーチェーンとの新規取引などで、牛乳・乳製品の売上を伸ばしました。また、両工場における製造作業環境の改善や製造コストの削減に取り組むとともに、安全・安心な製造体制の構築に努めました。

管理部門においては、働き方改革の一環としてＩＴプロジェクトによる在宅勤務の検証・推進と将来構想に取り組むとともに、職場環境におけるコロナ対策の実施やデジタル化による業務合理化を図りました。また、各本部と連携した事業プロジェクトの推進ならびに将来の本県酪農組織の整備に取り組みました。

特別会計（阿蘇ミルク牧場）においては、牛乳工場のビンライン設備を更新し、外部販売の強化を図るとともに、感染対策を講じた場内環境づくりに努めました。しかし、繁忙期における臨時休業や外出自粛の影響から入場者が激減し、非常に厳しい実績となりました。

【令和３年度事業方針】

我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の急速な拡大により、混乱と停滞はかつて経験したことのない厳しい局面を迎えています。政府は、感染防止対策と活性化対策に苦慮するなか、効果的

議長：池田　　洋 組合長

な対策には至っていません。また、世界的な経済の停滞傾向のなか、米国バイデン新政権の経済政策と中国との通商関係、ＥＵ離脱後の英国の行方など、大きな変革をもたらす可能性をもち今後の動向に注視が必要です。

酪農界においては、北海道の増産傾向が続くなか、都府県の家族経営に対する生産基盤維持・強化対策や生産者の労務負荷軽減に向けた酪農ヘルパー事業支援の拡充などの事業が実施されます。また、畜産物価格関連対策については、加工原料乳生産者補給金が５銭減、集送乳調整金が５銭増の10円85銭に据え置かれました。

乳業界においては、コロナ禍の影響が継続するなか、業務用需要は先行き不透明で、脱脂粉乳・業務用バターの過剰在庫への対策が急務となっています。加えて、想定外の需要変動への対応や配乳調整という難局を乗り切るため、業界一体となった連携・協調が求められる状況となっています。

このような状況のもと、本会では以下の事業に取り組みます。

生産本部においては、本県酪農の生産基盤強化のため搾乳後継牛の増頭支援ならびに飼養管理技術の普及推進を図ります。また、経営支援対策の拡充として、新規就農者育成支援事業をはじめ新後継牛牧場の開設など、経営基盤の強化に取り組みます。

乳業本部においては、量販店・生協をはじめ取引先への積極的な営業展開による販路拡大を図るとともに、今後の販売増加に応じた設備投資計画に向け取り組みます。また、製造技術力の向上ならびに、品質保証体制の拡充を図ります。

総会風景

管理部門においては、働き方や本会を取り巻く事業形態についての合理性・確実性に取り組むとともに、業務成果の見える化、ならびにＩＣＴ活用による事業推進力の向上に努めます。また、本県酪農の長期的な発展のため、中期経営計画の策定と組織を取り巻く環境整備に取り組みます。

特別会計（阿蘇ミルク牧場）においては、感染防止対策を施した受入環境を整備し、イベントの工夫や牧場景観づくりなど集客対策に努めます。また、老朽化した場内施設の補・改修に取り組み、酪農・乳業の理解醸成施設としての機能強化を図ります。

役員補欠選任

	氏　名	所属組合名
退任理事	松島　喜一	熊本酪農業協同組合
新任理事	衛藤　彰一	熊本酪農業協同組合

大村　英治 新副会長

衛藤　彰一 新理事

大村新副会長よりコメントをいただいております。

「この度、熊本県酪連の副会長に就任いたしました玉名酪農組合の大村英治です。

隈部会長、三角副会長とともに熊本の酪農及び熊本県酪連の発展のために頑張りますのでよろしくお願いいたします。」

第１回酪農後継者育成塾が開催されました

生産本部　営農指導課

去る５月26日（水）、「令和３年度第１回酪農後継者育成塾」が開催されました。昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催できませんでしたが、今年度はリモート開催も視野に入れ企画をしました。今回第１回目の開催は、ZOOMを使ったリモート開催となりましたが、26名と多くの方にご参加頂きました。

当日のテーマは「オリエンテーション」と題し、開会に続き、常務挨拶、講演、受講者の自己紹介という流れで実施しました。

大川常務

大川常務の挨拶では、酪農を取り巻く情勢の他、「この育成塾を知識習得だけではなく、仲間作りや交流の場として活用して欲しい」という激励の言葉がありました。

小池生産本部長

講演では小池生産本部長より、日本の酪農情勢や指定団体制度における生乳の流通・取引のしくみ、さらには暑熱対策の重要性や周産期疾病が与える酪農経営への影響などについての話があり、受講者は熱心に聞き入っていました。

また、最後に行われた受講者全員の自己アピールを含めた自己紹介では、どの受講者もやる気に満ち溢れ、なによりも牛、酪農が好きという気持ちが強く伝わってきました。

リモート開催の様子

育成塾終了後に行ったアンケートでは、

◆初めてのリモート受講だったが、酪農の基礎データや生乳の流通などが理解でき、とても勉強になった
◆酪農をする事に少し不安があったが、同年代の人達が頑張っていることを知ることができ、自分も頑張っていこうと思った
◆なかなか他の酪農家と接する機会がないので、この育成塾で交流を深めていきたい
◆学べる機会が少ないので、この育成塾でしっかりと勉強し、知識や技術を吸収していきたい

などの、前向きな感想を頂きました。

令和３年度酪農後継者育成塾は、全５回の開催を予定しています。内容につきましては、酪農に関する基礎的な知識を中心に講座を行います。次回以降もコロナ感染状況によってはリモート開催になる可能性もありますが、可能な限り集まって頂き、受講者同士の意見交換や交流の場を設けていきたいと思っています。

（営農指導課 096－388－3510　担当：作村）

おいしいエサ作り⑲

自給飼料の状況について

～イタリアンライグラスの収穫状況、トウモロコシの生育状況は？～

生産本部　営農指導課　増田　靖

気象庁によると、九州北部の桜の開花は平年より１週間、梅雨入りに至っては、20日ほど早くなりました。それに伴い、イタリアンライグラスの収穫時期やトウモロコシの生育に影響が出ています。

■イタリアンライグラスの生育と収穫の状況

イタリアンライグラスは、２月下旬以降、平年を上回る気温によって急激に生育が進み、昨年と比べ出穂期が１週間程度（品種によっては２週間程度）早まりました。例年だと４月中旬頃から収穫作業は始まりますが、今年は４月早々から収穫作業が開始されました。幸いにも４月上中旬は天候に恵まれましたので、良質なイタリアンライグラスを確保できたところが多くなっているようです。ただし、収穫作業が間に合わなかった一部の圃場では、４月下旬から雨天の日が多くなったことにより、出穂期での適期刈りが困難になったところもありました。

■トウモロコシの生育状況

春播きトウモロコシは、４月から５月中旬にかけ、気温が平年値より高く推移したため、順調な生育となりましたが、５月15日の梅雨入り以降、降水量が多くなった影響で、養分不足の症状（下葉の枯れなど）や、水はけの悪い圃場では、湿害による生育停滞が見られました。しかし、６月に入ると晴れの日が多くなり、生育は次第に回復し、受粉も順調に進んでいるようです。熊本県畜産研究所に設置している春播きトウモロコシの展示圃場（品種数：25品種、播種日：４月５日）の調査では、昨年とほぼ変わらない６月中下旬に絹糸抽出期となっていることから、収穫適期も昨年と同じ頃になる予想です。

いよいよ７月から春播きトウモロコシの収穫が始まります。良質なトウモロコシ確保に向け、刈り取り前にミルクライン等による熟期確認を行い、黄熟期での刈り取りを心掛けて下さい。

また、令和元年から国内で発生し始めたツマジロクサヨトウについては、６月に県内での発生が確認されました。春播きトウモロコシでの被害は殆どない状況ですが、夏播きトウモロコシでは、少なからず被害が発生すると考えられます。令和３年６月30日現在において、使用可能な農薬は、若齢幼虫で効果を発揮しますので、夏播きトウモロコシ播種後は、早期発見、初期防除に努めましょう。なお、農薬による防除にあたっては、使用可能な農薬かどうかを確認の上、ご使用下さい。

下葉の枯れ（Ｒ３.６.３　合志市）

ツマジロクサヨトウによる食害（Ｒ３.６.24　相良村）

令和３年度「ちちの日に牛乳（ちち）を贈ろう！キャンペーン」開催！

今年度も熊本県が発祥である「ちちの日に牛乳（ちち）を贈ろう！キャンペーン」を実施いたしました！昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により熊本県庁と九州農政局への牛乳贈呈式および商業施設での牛乳試飲会が中止となっていたため、「今年はぜひ多くの方々に牛乳を飲んでほしい！」という強い思いを持って活動内容を検討しました。

しかし、５月頃より県内における新型コロナウイルス感染者が急増し、感染拡大防止を考慮した結果、九州農政局での牛乳贈呈式および牛乳試飲会は中止としました。県女性部による熊本県庁への牛乳贈呈式も開催が厳しい状況となりましたが、県からのご提案により「リモートによる牛乳贈呈式」が今回実現しました。

熊本県庁知事応接室とらくのうマザーズ本会役員応接室とをＺｏｏｍを用いて繋ぎ、蒲島知事と県青壮年部・女性部各三役による牛乳贈呈式が執り行われました。まず、県知事と稲田会長により牛乳の試飲が行われ、知事より「おいしい！」の一言をいただきました。その後の意見交換会では県協議会の活動もアピールでき、滞りなく贈呈式は終了しました。今年は県青壮年部三役の応援やＺｏｏｍの活用等、初めての試み尽くしの贈呈式となりましたが、社会情勢を考慮しつつ有意義な活動ができたのではないでしょうか。

また、県青壮年部の活動の一つである保育園・幼稚園の保護者への牛乳の無料配布について、今年はＬＬ大阿蘇（200ml）をラインナップに加え、キャンペーンシール・阿蘇ミルク牧場チラシ兼値引き券を添付する取組を行い、多くのご注文をいただきました。

新型コロナウイルス感染症の影響は未だ強い状況ですが、さらなる牛乳消費拡大・酪農業界の活性化を図るため、感染拡大防止を念頭に今後の活動内容を検討・実施して参ります。

COLUMN ―コラム―

「今どきの若者はすごい！ ビジョンを持ち突き進む!!」

らくのうマザーズ乳業本部長
山本　正敬

ゴルフの祭典「マスターズ」では松山英樹選手が日本人初の優勝を飾り、コロナ禍でのゴルフブームに拍車がかかりバブル期以来の盛況となっているそうです。日本人選手の悲願であり、過去には青木・尾崎・中嶋のＡＯＮをはじめとする日本のトッププロが何度もはじき返された高い壁がありました。松山選手はマスターズ優勝まで10年かかったとのことですが、その10年が早いか遅いかは、積み上げた実績からすると妥当ではないかと思います。

２年前、女子プロゴルファーの渋野日向子選手が「全英女子ＯＰ」で優勝したのとは内容が違います。渋野選手は初の海外遠征で、それもメジャー大会であったのもすごいことです。世界中のトップ選手の力量などの情報はおそらく無くて勢いで優勝したのではないでしょうか。日本の代表としてのプレッシャーなど気にせず無欲の勝利でした。

ところが、松山選手は早くから米国に渡り、世界最高峰のＵＳＰＧＡツアーに参戦し、世界のトッププロとの力量の差を感じ、マスターズ優勝をビジョンにレベルアップのための努力を続け、勝ち取った勝利だと推察します。松山・渋野両選手は、優勝までの経過は全く異なりますが、ともに誇らしい勝利でした。

この原稿を書いている最中、笹生優花選手が「全米女子オープン」で日本人同士のプレーオフの結果、畑岡奈紗選手を破り優勝しました。フィリピン生まれの東京育ち、19歳でプロになり、まだ日が浅いのにも関わらず、メジャー大会での優勝は凄いの一言につきます。畑岡選手も松山選手同様10代から米国に渡って経験を積んでおり東京五輪での活躍が期待されます。

最近、スポーツ界では世界で大活躍する若者が台頭し、メジャーリーグでは大谷翔平選手の二刀流が話題となりましたが、今シーズンは、長打に走塁も目立ち、投げて打って走ってと現役の大リーガーたちもが、常識を越えたプレーぶりを称賛しています。

また、バスケットボールのＮＢＡ八村塁選手は、トップリーグのレギュラーとしてプレーオフ進出の立役者の活躍、テニスの大坂なおみ選手は、全豪オープン優勝など活躍し、世界ランキング第２位など、スポーツ界だけでも世界のトップ選手として、活躍する若者が数多く輩出される時代となりました。

なぜ世界で活躍できるのか？私なりの答えを求めてみました。共通して言えるのはビジョンが明確で高いこと。達成のための環境に順応でき、好きなことに対する努力は惜しまない。まわりを気にしない。答えとしては、このようなことではないでしょうか。

らくのうマザーズもここ数年、毎年10名程度若者が入会し、徐々に活躍の場をひろげています。先日、コロナ禍で苦戦するＬＬ製品の販売を挽回したいと、営業部の若手職員約20名が、小型容器の８本入りの販売企画の段ボールに詰める作業を2,000ケース分、一日かけて取り組んでいました。皆、何とか販売量を増やしたいという一心で、作業それぞれの役割など分担が自然と出来ており、一致団結した仕事ぶりで、入会して日の浅い新人職員たちも、テキパキとこなしており感心しました。

社会においては、最近の若者は…とよく耳にします。それは私を含めた昭和世代の経験からくる、ものの見方や考え方で判断してしまうため、ズレが生じてしまうのでしょう。もはや、過去に培ってきたものを常識として判断する時代ではなくなってきたのです。「努力と根性」ではなく、ビジョンを持ち努力する環境を提供することで、スポーツ界の若者のような活躍を期待できるのです。さあ、らくのうマザーズの若者がどんなビジョンを描いているのか楽しみです。

酪農生産現場においても若者が活躍していると聞きます。これからの本県酪農を下支えするマザーズの若い力が突き進めるよう、潜在能力を引き出し力強く育てていきたいと思います。

大腸菌性乳房炎

生産本部技術課　塩手　文也

特に６月から８月にかけて環境性乳房炎が高頻度に検出されます。これらは環境温度及び湿度の上昇によるものと考えられています。また、暑熱ストレスによって免疫力が低下し、乳房炎原因菌の排除が困難となります。

暑い時期に増える環境性乳房炎の原因として、大腸菌群（以下ＣＯ）、表皮ブドウ球菌、酵母様真菌などがあります。昨年、本会に依頼された細菌検査の１割以上で、ＣＯが検出されています。(87/795検体）今回はその中でも重篤な症状を引き起こすＣＯの一種である大腸菌性乳房炎についてふれていきます。

【症状】

通常、感染がおこると発熱、乳房の熱感、腫脹、硬結などの症状を起こします。乳汁は多くのブツを含む水様、希薄な乳白色、黄色を呈します。さらに酷い症状では、脱水、体温および皮温の低下、起立不能、乳房の冷感、罹患乳房の壊死などを起こします。

【治療と予防】

酪農家で実施できる治療として、オキシトシンを用いた頻回搾乳や乳房内洗浄療法、乳房冷却などがあげられます。抗生剤による殺菌を行う前に、乳房内の原因菌を物理的に除去することによって菌量を減少させることができる安価で安全な治療法です。抗生剤の投与前に乳房内洗浄療法を実施することは、臨床的意義が大きいと考えられています。

大腸菌性乳房炎に対してセフェム系の乳房炎軟膏などを使用すると、エンドトキシンショックを起こし、症状が悪化することがあります。また、用法用量を守らずに抗生剤を使用すると薬剤耐性菌を出現させ、牛のみならず、人間の医療にも影響を及ぼす可能性があります。是非、抗生剤の使用については、獣医師に相談した上で行ってください。

予防としては、牛舎環境を清潔で乾燥した状態に保ち、ストレスを回避させることで、牛の健康を維持し、抗病性の低下を防ぐことができます。

牛床の敷料を豊富に使用し交換頻度を高め、風の流れを作り換気をよくすることで、牛舎内を乾燥させ、暑熱ストレスを回避させます。また戻し堆肥を敷料として使う場合は、完熟させた堆肥を使用することで、堆肥中の大腸菌生菌数を減らすことができます。

また、子牛の下痢対策に使用されている大腸菌の抗原が含まれるワクチンや乳房炎用多価ワクチンなども大腸菌性乳房炎対策として使用されています。

【まとめ】

毎年夏に増えてくる大腸菌性乳房炎の予防や早期に治療を心がけることにより、酪農家の生産性の維持、損失を最小限に抑えることが出来ます。定期的なワクチン接種の検討や、早期発見、農家で行えるできる限りの適切な処置、さらに早急に獣医師へ相談し、早期治療を行うことが大切だと考えます。農家と我々獣医師の二人三脚で、一頭でも多くの牛を乳房炎の苦しみから救うことが出来ればと思います。

【お知らせ】

（廃棄物処理法）

薬品瓶、針や注射器は、事業系廃棄物として処理することが義務化されており、一般家庭ごみで捨てることは法律で禁じられています。処分する場合は、処理業者、もしくは処方を行った獣医師にお渡しください。

牧場で飼育している世界5大品種の生乳をブレンド、牧場内施設でボトル詰めした牧乳とこだわりの生乳96%を使用して製造したミルクコーヒー
牧場自慢の牧乳をご賞味ください

2021 夏のギフト始まりました

牧場こだわりの商品のギフトセットを販売しています。
皆様の大切な方への贈り物にぜひご利用ください。

限定商品もございますので、お早めにご注文下さい。
※ご注文は、牧場物産館・お電話・FAX・メール・HPにて承っています。

手づくり体験館

時間割

第一教室	第二教室
10:30 アイスづくり	11:00チーズづくり
11:45 アイスづくり	12:30バターづくり
13:00 アイスづくり	14:00チーズづくり
14:10 アイスづくり	15:30バターづくり
15:20 アイスづくり	
16:10 アイスづくり	

○月△日(☆)直
もぅ子
めぇ助

当日空席がある場合、開催時間１５分前までの受付！

感染対策として、各教室とも参加数を減らして開催しています。またご参加の際はマスクの着用と体験に参加される方のみのご入室となります。※感染防止の為見学の方のみのご入室をはじめ、乳幼児様などマスクの着用が困難な方のご入室はご遠慮いただいております。皆様のご理解とご協力をお願いします。

７・８月のおすすめ季節メニュー★

アイスづくり体験

８月11～15日の期間はアイスづくり体験は1セット４名様　1800円での受付となります。

牧場の夏あそび　8月7・8・9日開催

紙ひこうき選手権
開催時間/10:20受付10:30スタート
開催場所/ミルク工場
先着15組　2人1組200円

水ふぅ～せんキャッチ大作戦
開催時間/10:20受付10:30スタート
開催場所/ミルク工場
先着15組　2人1組200円

感染症対策のお願い
*発熱や咳、味覚や嗅覚障害の症状がある方のご入場はご遠慮ください。
*マスクの着用、咳エチケット等のご協力をお願いします。
*ご入場の際、検温を実施しておりますのでご協力をお願いします
*こまめな手洗い・うがい、アルコール手指消毒のご協力をお願いします。
*ご入場中も、お客様同士の間隔をあけてください。
*混雑状況に応じて施設内の入場制限を実施する場合があります。

世界のカブトムシ・昆虫ふれあい体験館

夏休み期間限定☆カブトムシ捕り体験
7月22日～8月中旬まで(予定)
※別途、体験料が必要となります。
世界のカブトムシやクワガタが大集合★
※別途入館料が必要です。

阿蘇郡西原村河原3944－1　入場料/おー人400円(4歳以上)/営業時間10:00～17:00/問合せTEL096-292-2100

乳業だより

ラッピング電車が新しくなりました！

今までの一両編成の市電から、今回は２両編成の市電へとリニューアルしました。
デザインは車両下部だけですが、２両編成ということで存在感がUP！
市電沿いを通られる際には、是非「らくのうマザーズ号」を探してみてくださいね。

「らくのうマザーズ号」に安心して乗っていただける日が、早く訪れますように。

阿蘇の雫

６月25日発売開始！

阿蘇ミルク牧場で搾った生乳のみを使用したこだわりの牛乳とミルクコーヒーを発売中です。

商品名の「阿蘇の雫」には、「阿蘇の恵みを一滴、一滴大切にお届けしたい」そんな想いが込められています。

九州内は宅配・道の駅を中心に、九州外では量販店・百貨店での販売予定です。

是非、ご賞味ください。

阿蘇の大地が生んだ“新鮮な生乳”は、おいしさが違います

「阿蘇の雫」は阿蘇ミルク牧場で大切に育てた乳牛から搾った
新鮮な生乳をブレンドし、牧場内でボトル詰めしています。
“牛乳は、どれも一緒”と考えている人にこそ飲んでほしい
“牧場しぼり”のおいしさをお楽しみください。

種類別 牛乳 生乳100%

阿蘇ミルク牧場
阿蘇の雫
Kumamoto Aso
ASOnoSHIZUKU
200ml
要冷蔵(10℃以下)
賞味期限 製造日を含む15日間

種類別 乳飲料 ミルクコーヒー
生乳96%使用

健やかな牧場で育った乳牛
牧場内で育てられた乳牛のみから搾った生乳を使用しています。

搾りたての生乳をフレッシュなままで
搾乳したばかりの新鮮な生乳を、鮮度の良い状態のまま、牧場内工場で殺菌・充填しています。生産牧場ならではの鮮度のよさが、おいしさの秘密です。

香りまでおいしい高い品質
牧場で大切に育てた乳牛から搾った生乳を96%使用し、コーヒーをブレンドした贅沢な味わい。

新生「くまもと黒毛和牛」全国トップブランドへ

「くまもと黒毛和牛」の全国トップブランドに向けた新たな取組が始まっています。

本県は、全国的にも「あか牛」の主産地として知られていますが、黒毛和牛の飼養頭数も全国第４位と、全国トップレベルの生産地に成長しています。

しかし、これまで、県内には地域銘柄や団体・企業等がもつ黒毛和牛ブランドが林立していたため、「熊本県産黒毛和牛」としての統一感が希薄で、全国的な認知度も、あまり高くありませんでした。

そこで、昨年度、県や農業団体等からなる「熊本県産牛肉消費拡大推進協議会」では、黒毛和牛の銘柄をもつ団体や企業等と検討を重ね、今後は「くまもと黒毛和牛」の統一の冠をつけ、オール熊本で全国トップブランドを目指した取組を進めていくことを決定しました。

３月19日には、蒲島知事をはじめ団体の代表者が一堂に会し、この取組のシンボルとなる新たなロゴマークを発表。マークには、県の宣伝部長である「くまモン」もデザインされています。

今後は、本県の強みである「くまもとあか牛の高い認知度」「くまもと黒毛和牛のスケールメリット」を十分に生かし、関係者一丸となって他県には真似できない「あか」と「黒」のタッグを組んだＰＲ戦略で全国に勝負をしていきます。